



第52回 松村記念例会開催

令和4年1月26日

断酒会生みの親である故松村春繁氏を偲び、逝去された一月に開催している松村記念例会。今年52回目で二月二十六日に高知市東部健康福祉センターで行われた。

断酒高知

3月号

発行所
高知県断酒新生会
高知市若松町 215
TEL(088)883-7925
発行人 武内 晴夫
編集人 橋本 和明

今回はまず、NHKが制作放送した番組、「素顔の四国 断ちますーアルコールー酒王国・高知の舞台裏」(昭和五十九年)を鑑賞。30数年前の若き日の北村幸彦元相談員(南四国断酒会)の酒害活動がクローズアップされ、松村氏とともに断酒会を支えてくださった、故下司孝麿院長(下司病院)も登場、直接お世話になった会の先輩からは感慨深い声が上がった。また断酒例会の様子も映し出され当時の先輩方の苦労に思いを馳せた。

続いて武内晴夫会長が挨拶し、記念例会の主旨を説明した。

「未だに新型コロナウイルスが猛威を振るっています。しばらくはコロナとの戦いが続くと思いますが、知恵を絞って、先輩方の築いてくれた歴史ある断酒会の灯を絶やさないようにしていかなければならないと思います。」

松村記念例会について新しい会員さんたちのために説明いたします。

松村春繁さんは、昭和33年11月25日、全国に先駆けて高知に断酒会を結成。続けて昭和38年11月10日には、高知県断酒新生会の創立5周年記念大会を、はりまや橋近くにあった旧土電会議館で行った後、引き続き土電会議館において、全日本断酒連盟結成式典を遂行しました。昭和40年9月には、日本唯一の「酒を断つ学校」と題して、全国で初めて「第1回断酒学校」を開催、現在は「松村断酒学校」と名称を変更して、毎年5月に開催しています。

松村さんは、全国各地を飛び回り各地区の「断酒会」結成に尽力されました。松村さんの基本理念は、『自分だけ救われて事足りたでは、とんでもない間違いだ。我々は断酒できた喜びを多くの

酒害者に分かち、一人でも多くの酒害者を救い、最終的には一人の酒害者をもこの世からなくすのだ』で一貫していました。昭和44年秋の高知での第6回全断連全国大会に病を押して参加、壇上で『私の屍をのりこえて断酒会を益々発展させて貰いたい。』と絶叫されました。そして昭和45年1月30日に惜しまれながら亡くなりました。

このように断酒会に多大な功績を残された、故松村春繁氏を偲び翌年の昭和46年に第1回松村記念例会が始まり、今回で52回目を迎えることができました。松村さんの残された語録や精神を振り返りお互いに継承していくためにも本日の会が有意義なものとなることを願います。」

このあと会員、家族の体験発表と、断酒継続年度表彰を行った。

受賞者は、(20年)武内晴夫、西内雅信 (15年)小松重洋 (10年)山本正博 (7年)生藤貴博 (3年)吉田信也 (1年)國澤昇平、山本大地、他2名の10名だった。

令和3年度の振り返り

コロナ禍2年目の活動録

5月

高知県断酒連合会理事長に小松さんが就任

高知県断酒連合会理事長に小松重洋さん(南国支部)が就任した。小松さんは平成18年に入会。断酒継続に励む一方、断酒会活動にも精力的に参加。松村断酒学校の事務局長を務めている。県内外を問わず多くの研修会やイベントに参加し全国の断酒会会員・家族にも多くの友人を持つている。また医療、行政とのネットワークも幅広い。小松さんに就任の抱負を語っていただいた。

連合会会長に就任して思う事

小松重洋

昨年の5月、連合会の総会で会長に就任させていただきました。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

「例会出席」あつての「二日断酒」とあるように、断酒会員にとつて

は、「例会」が命を守るセーフティネットです。コロナ禍である今、その「例会」が開くことができない現状があります。皆さんもご存じのように断酒会を取り巻く状況はかなり深刻で、『かがり火』等でも断酒継続が危ぶまれるケースも報告されています。「例会出席」が当たり前の断酒会において、「例会」が開けないという状況を誰が想像できたでしょうか。

そのような中でも全国各地でZOOM例会が開かれるようになりました。ZOOM例会の広がりには、「断酒をしたい」「断酒を継続させたい」という断酒会員による強い思いの結果だと思えます。高知県でも、過去2回オンラインで「断酒スクール」を運営させていただきました。また、ZOOMによる朝例会も、月2回開かせて頂いています。命を守るセーフティネットである「例会」の捉え方を大きく変容させたコロナ禍ですが、「二日断酒」を続けるためにどうしたらいいのかみんなが知恵を出し合ったことは、今後の大きな財産

になると思います。

もちろん、リアルに出会い、生の体験談を聞くことが「断酒継続」の基本です。しかし、ZOOM例会等で、今までならお会いできなかった他の会員さんから体験談を聞くことができるのも、オンラインだからできることです。「断酒継続」の方法の一つでも増やすことは、これからの断酒会に必要なことではないかと思えます。そのため、コロナ禍が収束したとしても、リアルとオンラインを上手く合わせた、研修会なり、大会なりを運営していくことの必要性を実感しています。

今年、四国断酒ブロック(高知)大会を予定しています。どのような方法で実施できるのか検討している最中ですが、皆様と元気に笑顔でお会いできることを願っています。



断酒継続15年記念の花束をうける小松さん

● ZOOM断酒スクール、初めて全断連共催で開催



今年も松村断酒学校の開催は見送られ、この期間にオンライン断酒スクールを全断連、高知県断酒連合会、依存症ピアネット「ソーパーねっと」の共催、NPO法人AKKこうち後援により開催した。

5月8日(土)開校セレモニーには衆院議員中谷元氏(アルコーン問題議員連盟会長)、故松村春繁氏のご長女、久保田常子ご夫妻にもオンラインで参加していた。医療法人社団光風会・三光病院の海野順院長はじめソーパーねっとのスタッフのみなさん、高知県、四国、さらに全国の各断酒会のみなさん、多くの方々のご

協力により滞りなくオンラインスクールを進行できた。また、今回初めてオンラインの運営に参加された方々もおられ、今後オンライン例会を開催する時には今回の体験が生かされるに違いない。研修の第一部では全断連理事長伊藤聰さんが司会を担当された。

6月

● 土佐病院で院内例会が始まる

医療法人須藤会土佐病院は石田正之先生を中心にアルコール依存症治療に取り組んでいる。治療に自助グループが有効であることで、高知県断酒連合会への協力要請をいただいた。検討の結果、毎月1回土佐病院内で院内例会を開催することが決まり6月12日より実施されている。当初はリアルで行ったがコロナ感染拡大により、現在、院内の患者さんばかり、断酒会員はオンラインで参加という形で行われている。新生会、南四国、幡多の各断酒会会員

が交代で司会を担当している。

7月

● 高知県酒害サマースクール on Zoom

高知県アルコール問題研究所が主催し毎年七月に行われている高知酒害サマースクールも昨年に引き続き今回もオンラインで、七月二十二日に開催された。新生会会員も運営に協力し、また國澤昇平さん(城東支部)が体験発表をした。

以下、運営の要として活躍された深瀬雪子さん(精神保健福祉士)に感想を伺った。

2020年から日本に上陸した全国で感染拡大した新型コロナウイルス感染症、度重なるパンデミック。それは人々の日常生活に大きく影響をきたし、この年は残念ながら47年間続けてきたサマースクールの開催を初めて断念することに。2021年は、何とか、どんな形でもいいから開催したい、そんな実行委員の熱い思いのもと、オンラインとリアル会場を駆使してのハイブリッド開催と

なりました。

縁あって第48回サマースクールの事務局として携わることになった私ですが、サマースクールへ参加したのは2019年初、その際は司会を一部担当したのみで何が何やら分かっておらず、加えてこのコロナ禍の状況、アナログな人間である自分は不安ばかりが先行していました。そんな私を力強く支えてくれ、盛会に終わるまで終始導いてくれたのが実行委員である断酒会の皆さん方でした。南四国断酒会はじめ断酒新生会、高知県断酒連合会、AKKこうち、そして家族の皆さん、サポートしてくださった多くの方々、本当にありがとうございます。

開催方法をデザインしていく中で様々な障壁もあり、リアルの中継会場は音響とカメラワークはプロにお願いしよう、映像の切り替え担当も必要だ、ネット環境の脆弱性を補うためにレンタルWi-Fiを借りないと、等々今までのサマースクールとは180度違う

た進め方でした。もちろん感染症への対策も併せて。ZoomのID、パスコードを送ろうとしたらメールがはじかれてしまったりと、ギリギリまで様々な調整が必要なサマースクールでしたが、しかしそれでも、例年と変わらず多くの方が参加してくださる結果となり、この上なく嬉しく感じると共に、ほっと安堵感を覚えました。

何より嬉しかったのは、今まで参加できなかった30名ほどの下司病院患者さんたちがほぼ1日中視聴してくれたことです。職員のサポートのもと病院の二室でプロジェクトにもZoomだから参加できた「もっと早くサマースクールに参加したらよかった」等心えていただき、オンライン開催だからこそ患者さんの利益につなげることができた、という収穫は大きかったです。また、翌日「昨日はお疲れ様」と多くの患者さんが声をかけてくださった時には、「やって良かった」と心から感じました。

当日後半のディスカッションで

は、講師の小林桜児先生・山本院長・当事者・家族が互いに意見を交え非常に濃い内容となり、今後に繋がるキーワードも多数聞かれました。新しい生活、新しい在り方は今後のサマースクールにも取り入れられていくことと思います。しかしどのような形であっても止めない限りづなかりは感じ続けていくことが出来ると改めて思った第48回高知酒害サマースクールでした。支えてくれた皆さん、ご参加くださった皆さん、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。ました。

●高知県断酒連合会が
特定非営利活動団体(NPO)
に認定される

「アルコールが引き金となる健康障害、飲酒運転と事故・事件、DV、自殺など、関連問題の発生を低減するべく、酒害者、その家族、医療者、職場等と連携を深め、一般社会への啓発活動の幅を広げたいと考えています。こうした活動には、行政、医療、福祉、教育等を横断した活動が必要で、そのた

めにも現在の活動幅を広げるためにもNPO法人を取得しました。(小松重洋理事長挨拶文より)。

いくつか困難な問題があったが、粘り強く諦めずに課題に取り組み解決された、スタッフの皆さんに敬意を表したい。

●依存症セルフヘルプグループ
見学会

七月二十九日(木)、支援団体メンバーによる断酒例会見学会が新生会事務所で行われた。断酒会の例会を実体験して依存症者救済に役立てようという試み。県立精神保健福祉センター主幹の宮内砂緒里さんに感想を伺った。

「昨年度、新型コロナウイルスの影響で中止となっていました。今年度は感染対策をしながら実施できたこと、大変うれしく思っています。参加者の方から「当事者の方々の生の声を聴くことができ、とても有意義でした」「話しやすい雰囲気、自助グループの印象が変わりました」「繰り返し関わっていくこと、周りの人々



とつながることの重要性を理解できました」との感想がありました。百聞は一見にしかず、例会の雰囲気を感じ、様々な取組みを通じて支援者と自助グループがつながっていくということを実感していただけだと思っています。みなさまの体験談は、胸の奥がぐっと揺れるような、そんな感覚がいたします。辿られてきた人生を聴かせていただくことで、私たち支援者自身が困られている方々の回復を信じられるようになっていきます。断酒会のみなさまにはご協力いただき、誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。」

10月

●オンライン全国大会

全国大会が中止されるのも二年連続となった。全断連はオンラインでの開催を選択し、オンライン例会に実績のある高知県断酒連合会に運営協力を要請。新生会会員も運営に協力した。十月十日に「全国へ東北断酒の集い2021」のタイトルでオンライン開催。高知県の会員は高知城ホールをサテライトとしてリモートワークで進行に協力し、また二室をパブリックビューとして解放した。

11月

●飲酒運転撲滅パレード

十一月十日断酒の日になちなみ、毎年十一月に内閣府が主催するアルコール関連問題啓発週間。断酒会は飲酒運転撲滅を旗印に高知市内帯屋町アーケードでパレードを行った。(十一月十四日)コロナの状況はやや収まっていたが、十分に感染防止対策を取り、啓発用のチラシとティッシュも希

望者のみに配布するなど慎重に気配りしながらパレード。



写真提供・秋永恭良さん(南国断酒会)

12月

●望年研修会

前年同様、4名以上の会食は避けるという状況で、望年会は中止し、代わりに望年研修会を十二月十二日、高知市保健福祉センターで行った。行政、医療の皆さんにも、より多くの体験談を聞いていただく、よい機会になったようだ。



体験談

自分と向き合って

小松 重洋 (南国支部)

今年の一月、二つの表彰状を頂きました。一つは勤続三十年、もう一つは断酒十五年の表彰状です。賞状は無いのですが今年も煙草を止めて禁煙二十五年でもあります。もう一つ大事な節目は、今年で結婚二十五年ということですよ。二〇二二年は、節目の多い年となります。

社会人になってからの私は、仕事でお酒を覚え、次第にお酒に強くなつていきました。お酒を飲むと陶酔感を覚え何とも言えない心地よさを感じ、酔っている時だけ苦みから逃れることが出来、現実逃避することができました。また、仕事でも、日常の辛い地獄から早く逃れたい、早く夕方になって酒を飲んで別世界へ飛んでいきたいと思うようになりました。酒欲しさに飲酒運転を繰り返す日々。当然、何とかしなければと思う気持ちはありましたが、ど

うすることも出来ず、日々の生活に流されていきました。そんな中、妻と結婚しました。妻も私のお酒の飲み方を何とかしようといういろいと試みたのですが、どうにもなりませんでした。私はといえば、そんな妻の行動が煩わしく、隠れ飲みを始めました。そんな私に対して、ある日妻は、「離婚するか、断酒会に入って酒を止めるか決めて」と言いました。その妻の言葉がきっかけとなり、断酒会につながりました。二〇〇六年十月のことです。

断酒会では、自分の幼少期を見つめ直すことを教えてもらいました。私には子供の頃の記憶が余り無く、子供の頃を振り返ろうとすると、とてつもない嫌悪感でいっぱいになり、身体がねじれたような気持ちになりました。そのことについて、妻は、「そこに何か原因があるかもしれないね。」と言いました。断酒会の中で私は、自分をゆっくり見つめていきました。

断酒が続く中、突然ぽつと、記憶の断片が蘇りました。その記憶

の中の私は、部屋の隅で意識を殺し、蠟人形のように小さくなって震えていました。その横で、父は、母や祖母に対して威圧的な態度を取り、大きな声で怒鳴ったり、物を壊したりしてしました。幼い私は、この父の姿がとても恐ろしかったです。そして、気付きました。会社の取引先には、威圧的な態度を取る人や、直ぐに不機嫌になり大声を出す人がいました。私は、苦手意識を持っていましたが、それは、父と似ていたからだという事です。少しずつ、少しずつ自分の幼少期を見つめ直しながら、過去の過去の捉え直しを行っています。未来は変えられないけれど、過去は変えられない、とよく言われます。しかし、わたしは、過去を見つめ直すことで、過去の自分を捉え直し、過去の意味付けを変えています。

断酒会に入会して十五年。今日も一日断酒継続を会の仲間と継続しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から 「第76回松村断酒学校」開催中止のご案内

令和4年5月7日(土)より9日(月)の日程で開催を予定しておりましたが、「第76回松村断酒学校」ですが、新型コロナウイルスの感染拡大が大きな社会問題となっている現状を鑑み、今回の開催を中止させていただきます。皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお祈りいたしますとともに、来年度の開催へ向けて、変わらず皆様のご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「ご本人や家族の方でお酒に
悩んでいる方はいませんか？」

※ 高知県断酒新生会例会案内(ご気軽に参加ください。)

毎月開催日	時間	場所
第一 日曜日	休会中	
第四 日曜日	十九時～二十一時	佐川町総合文化センター
第二・五 火曜日	右に同じ	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二二五)
第四 火曜日	右に同じ	安芸市総合社会福祉センター(4月)
第一 水曜日	十九時～二十時四十五分	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二二五)
第二・三・四 水曜日	右に同じ	高知市東部健康福祉センター (但し、祝日の場合は県断酒新生会事務所)
第一・二・三・四・五 木曜日	十三時～十五時 (昼間例会・相談)	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二二五)
第三 金曜日	十九時～二十一時	高知市瀬戸西町公民館
第二 土曜日	右に同じ	香南市のいちふれあいセンター
第三 土曜日	右に同じ	南国市日章福祉交流センター
第四 土曜日	右に同じ	土佐町農村環境改善センター